JAGS
Japan Association on Geographical Space
News Letter
February 2016
No.24
http://jags.ne.jp/

最新技術と経験を生かした投網作業
（2015年１０月３日　橋爪孝介　撮影）

地理空間学会ニューズレター

TOPICS

・『地理空間』第８巻刊行のお知らせ
・第９回大会のお知らせ
・第20回例会のお知らせ
・第８回大会の報告
・第８回大会巡検報告
・第８回総会報告
・第19回例会の報告
・学会からのお知らせ
・コラム「わたしのフィールドから」（橋爪孝介）

JAGS

『地理空間』第８巻刊行のお知らせ

機関誌「地理空間」第 8 巻 1 号が 2015 年 6 月 20 日に，2 号が 12 月 20 日に発行されました。掲載内容は以下の通りです。1 号の全文と 2 号の要旨はホームページでご覧いただけます。

○1 号

【リサーチ・ペーパー】

馬場千遥・吉田国光：長野県木島平村における糠千地区における地域づくりの現状と課題―行政・住民・大学の取り組みに注目して―

池田和子：生産における地域との結びつきの過程―愛媛県における削りかまぼこを事例として―

堀江瑶子：横浜市中区伊勢佐木モールにおけるエスニックビジネスの進出

NIHEI, Takaaki・HAYASHI, Hisayoshi・SHIROTA, Ricardo: Characteristics of sugarcane production in the State of São Pauro, Brazil

【特集】「オーストラリアの多文化社会」

堤　純・吉田道代・葉　倩瑋・筒井由紀乃・松井圭介：センサスデータからみたオーストラリアにおける多文化

社会の形成

吉田道代・葉　倩瑋・筒井由紀乃・松井圭介・堤　純：シドニー・ライカートにおけるイタリア系コミュニティの拠点再構築の試み

葉　倩瑋・筒井由紀乃・松井圭介・堤　純・吉田道代：キャンベラにおける歌人社会の空間構造

筒井由紀乃・松井圭介・堤　純・吉田道代・葉　倩瑋：南オーストラリア州アデレードにおけるベトナム系住民の分布とその特徴

松井圭介・堤　純・吉田道代・葉　倩瑋・筒井由紀乃：聖地ウルルをめぐる場所のポリティクスとアウトバックツーリズム

【書評】

白坂　蕃：横山　智著『納豆の起源』

加藤晴美：山下琢巳著『水害常襲地域の近世～近代―天竜川下流域の地域構造―』

呉羽正昭：菊地俊夫・有馬貴之編『自然ツーリズム学（よくわかる観光学 2）』

横山　智：山下亜紀郎著『水環境問題の地域的諸相』

山下亜紀郎：森　和紀・佐藤芳徳著『図説　日本の湖』

中村昭史：吉田国光著『農地管理と村落社会―社会ネットワーク分析からのアプローチ―』

松井圭介：Hino, M. and Tsutsumi, J. eds.『Urban Geography of Post-Growth Society』

【例会要旨】

半澤誠司：文化と経済，そして地理が出会うとき―文化（創造）産業研究は何を目指してきたのか―

古川智史：広告産業の地理的集積と創造性

森嶋俊行：企業の対地域施策における企業文化の役割―産業遺産保存活用の事例を中心に―

【学会記事】

○2 号

【会長講演】

櫻井明久：地理学研究と地理教育との間

【論説】

福本　拓：土地売買の観点からみたエスニック空間の形成過程―大阪市生野区新今里地区における花街から韓国クラブ街への変貌―

片岡博美：エスニック・ビジネスの立地要因―コミュニティ研究から経済地理学的研究へ―

鹿嶋　洋：大分県における半導体産業集積地域の形成過程と企業間連関の空間構造

【リサーチ・ペーパー】

大竹伸郎：JA いわて中央による農業の公益的価値の創出へ向けた大規模地域営農のとりくみ

小島大輔・谷口佳菜子・城前奈美：佐賀県唐津市における「呼子朝市」の存続基盤

【特集】「消滅自治体論を批判する―地理学からの反論―」

植村円香：「消滅可能性自治体」における高齢者の小さな農業とその意義

藤永　豪：中山間地域における高齢者による農業の存続実態とその意義―背振山麓の集落調査をとおして―

林　琢也：「取り残される農村」は消滅していくのか？―郡上市和良町での「経験」とそれをもとにした「反証」―

市川康夫：フランスにおける農村の人口回帰と過疎化の展開

【書評】

佐々木　博：浮田典良・加賀美雅弘・藤塚吉浩・呉羽正昭編『オーストリアの風景』

小林岳人：橋本雄一編『QGIS の基本と防災活用』

森本健弘：田林　明編著『地域振興としての農村空間の商品化』

大島規江：山下清海編『改革開放後の中国僑郷―在日老華僑・新華僑の出身地の変容―』

松井圭介：佐々木　博著『最後の博物学者　アレクサンダー・フォン・フンボルトの生涯』

【学会記事】

※会員の方で，本誌がまだお手元に届いていない場合は，学会事務局までご連絡ください。

第９回大会のお知らせ

地理空間学会では，第 9 回大会を下記の通り開催する予定です。

【日　程】

2016 年 6 月 18 日（土）：研究発表，評議員会，総会，懇親会

6 月 19 日（日）：巡検（詳細未定）

【会　場】

筑波大学　**東京キャンパス文京校舎**（予定）

※詳細は順次ホームページに掲載します。

第 20 回例会のお知らせ

地理空間学会では，第 20 回例会を下記の通り開催する予定です。奮ってご参加ください。

【題　目】

「宗教地理の現在ーその可能性と課題ー」（仮題）

【趣　旨】

多様な信仰が重層的に展開し，「宗教の実験室」とも称される日本において，宗教地理学は人文地理学の一分野としてこれまで数多くの研究が蓄積されてきた。従来の宗教地理学の中心的なテーマとしては，聖地，宗教都市・集落，巡礼，分布・信仰圏，村落の宗教組織などを挙げることができる。近年になると，これらのテーマに加えて，新たな視点から宗教を論じる研究がみられるようになった。そこで，本例会では宗教地理に関する最新の研究成果の報告を通して，＜宗教地理の現在＞をめぐる可能性と課題について議論することを目的とする。

【日　程】

2016 年 3 月 15 日（火）13:00～16:00

【会　場】

筑波大学　**東京キャンパス文京校舎１階　120 講義室**

東京都文京区大塚 3-29-1

【交　通】

東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車，「出口１」より徒歩５分程度

（参考ウェブサイト）

http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html

【発表者（50 音順）】

〇石坂　愛（筑波大・院）

〇卯田卓矢（筑波大・博士特別研究員／本例会オーガナイザー）

〇川合泰代（明治学院大・非）

〇筒井　裕（帝京大）

【コメンテーター】

〇松井圭介（筑波大）

※詳細は順次ホームページに掲載します。

第８回大会の報告

2015 年 6 月 20 日（土）に筑波大学筑波キャンパスにおいて第 8 回大会が開催されました。大会参加者 94 名。以下のシンポジウムと研究発表が開催され，活発な議論が行われました。

【シンポジウム】

「消滅自治体論を批判する―地理学からの反論―」

〇オーガナイザー　須山　聡（駒澤大）

〇発表者・題目

S01 藤永　豪（佐賀大）：中山間地域における高齢者による農業の存続実態とその意義―背振山麓の集落調査をとおして―

S02 植村円香（秋田大）：離島における高齢者主体の「小さな経済」―東京都利島村のツバキ実生産を事例に―

S03 林　琢也（岐阜大）：「取り残される農村」は消滅していくのか？―郡上市和良町での「経験」とそれをもとにした「反証」―

S04 市川康夫（筑波大）：フランス農村における高齢者と過疎化問題

【一般口頭発表】

101 石川真弓（高崎経済大・院）：戦前日本におけるラジオの普及と地域社会の対応―群馬・埼玉を事例として―

102 小林岳人（千葉県立松戸国際高）：地理的興味の対象としてのオリエンテーリング

103 坂本優紀（筑波大・院）・小林博樹（東京大）・中村和彦（東京大・特任研究員）・斎藤　馨（東京大）：石川県金沢市における用水路の音環境と住民評価

104 川瀬正樹（広島修道大）：スウェーデン・イェーテボリにおける居住分化とインフラ整備

写真　一般口頭発表の模様

（2015 年 6 月 20 日　児玉恵理　撮影）

105 澁谷和樹（立教大・院）：旅行ブログを用いた観光行動の時空間分析―訪都外国人旅行者を対象に―

106 堀本雅章（法政大・国内研究員）：限界集落における観光地化と島民意識―食堂・民宿開業後の沖縄県宮古島市大神集落の事例―

107 丸山宗志（立教大・院）・大塚直樹（亜細亜大）：ホーチミンシティにおけるバックパッカーエリアの空間的特徴

108 白坂　蕃（東京学芸大・名誉）・渡辺悌二（北海道大）：パミール高原北部のアライ谷における牧畜

【ポスター発表】

P01 磯野　巧（徳島大）：徳島県徳島市における観光ボランティアガイドの知識習得形態

P02 竹下和希（筑波大・院）：長野県出身大卒者のライフコースとその規定要因

P03 名倉一希（筑波大・院）：群馬県におけるスキー場経

営体の変化―スキー観光衰退期に着目して―

P04 松原伽那（筑波大・院）：屋形船の水辺観光空間―隅田川沿いを事例として―

P05 橋爪孝介（筑波大・院）：里海創生事業の地域的役割と可能性―三重県志摩市における計画と実践から―

P06 小林　愛（筑波大・院）：伝統的祭りの変容と地域とのかかわり―新潟県小千谷市片貝地区の「片貝まつり」を事例に―

P07 冨田厚志（筑波大・院）：川崎市多摩川崖線軸における緑地保全活動

P08 麻生紘平（筑波大・院）：大田区の基盤的技術産業における外部経済―2014年に廃業した一事業所の取引関係に注目して―

P09 遊佐　暁（筑波大・院）：静岡県静岡市駿河区用宗地区における高度経済成長期以降の漁村及び漁民の生活の変遷

〇会員による投票の結果，竹下和希会員・名倉一希会員・小林　愛会員が優秀ポスター賞を受賞しました。

※総会終了後，筑波大学筑波キャンパス第二エリア小食堂で懇親会が開催されました。参加者 54 名。

第８回大会巡検報告

大会 2 日目の 6 月 21 日に千葉県柏市で地理空間学会第 8 回大会巡検が行われました。「変わる柏のまちづくり―スマートシティと駅前再開発を巡る―」をテーマに，柏駅周辺とつくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅周辺の開発から柏市の発展の様子を見学しました。

当日は曇り空のもと 33 人の方にご参加いただき，9 時 30 分につくばエクスプレス柏の葉キャンパス駅を出発し，産官学連携による駅前の「スマートシティ開発」を見つつ，豊かな自然の残る「こんぶくろ池」まで歩きました。池の周囲には，江戸時代の馬の放牧地の名残である野馬土手と呼ばれる土塁や，第二次世界大戦中に使用された柏飛行場の遺構が残っており，藪をかき分けて観察を行い，自然に囲まれた中で休憩をとりました。休憩後は柏インター付近にある「工業団地」の説明を受け，柏の葉キャンパス駅から柏駅まで東武アーバンパークラインで移動しました。

柏駅周辺で昼食をとり，13 時 30 分より午後の部です。柏駅は 1960 年代後半から「駅前再開発」が行われ，日本で最初にペデストリアンデッキが作られました。駅前再開発に伴い既存の商店街の衰退が起こりましたが，若者にターゲットを絞った経営に転換したことにより，現在では活気のある商店街に戻ってきた様子を見ました。その後，手賀沼まで行き，「手賀沼」の水害史と漁業，周辺の農業を観察し巡検を終了としました。

資料の作成や現地での解説は，筑波大学大学院生の方にご協力いただきました。また当日は天候が不安定で小雨が一時降る中，参加者の皆様には長い距離を歩いていただきトラブルもなく終了できました。巡検にご参加いただきました皆様と，ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

（オーガナイザー　木村祐介・栗林　慶・坂本優紀・羽田　司・包　慧穎・矢ケ﨑太洋）

写真　手賀沼にて

（2015 年 6 月 21 日　猪股泰広　撮影）

第 8 回総会報告

日　時：2015 年 6 月 20 日（土）

場　所：筑波大学筑波キャンパス総合研究棟 A 110

出席者：62 名

山下清海常任委員長の開会の辞，櫻井明久会長の挨拶のあと，橋本雄一会員を議長，橋爪孝介庶務委員を書記として選出し，総会を開始した。

Ⅰ　会務報告について

山下常任委員長より会員数（2015 年 5 月 21 日現在，330 名），第 7 回大会の開催，第 18 回例会の開催，機関誌「地理空間」第 7 巻 1 号および第 7 巻 2 号の刊行，ニューズレター（第 18～22 号）の発行，ホームページおよびメーリングリスト（jags-ml）の運営，日本学術会議協力学術研究団体の認定（2013 年 9 月 24 日），および 2015 年度学会賞について報告があった。

［地理空間学会学会賞］

【特別賞】

白坂　蕃

受賞対象：白坂　蕃『スキーと山地集落』明玄書房，1986 年 4 月.

白坂　蕃『海のくらし－島に生きる人々』小峰書店，1997 年 4 月.

尹紹亭著，白坂　蕃訳『雲南の焼畑−人類生態学的研究』農林統計協会，2000 年 12 月.

白坂　蕃．野沢温泉村におけるスキー場の立地と発展－日本におけるスキー場の地理学的研究 -1-．地理学評論　**49**: 341-360. 1976 年 6 月.

白坂　蕃．中央高地栂池高原における新しいスキー集落の形成．地理学評論　**55**: 566-586. 1982 年 8 月.

Shirasaka, S. Skiing grounds and ski settlements in Japan. *Geographical Review of Japan, Series B* **57**: 68-86. 1984 年 4 月.

Shirasaka, S. The agricultural development of hill stations in tropical Asia: A case study in the Cameron Highlands, Malaysia. *Geographical Review of Japan, Series B* **61**: 191-211. 1988 年 12 月.

Shirasaka, S. Changing slash-and-burn cultivation in Xishuangbanna, Southwestern China. *Geographical Review of Japan, Series B* **68**: 107-118. 1995 年 12 月.

白坂　蕃．日本の古代スキーとその自然環境．日本スキー学会誌　**10**: 135-143. 2000 年 7 月.

Shirasaka, S. Changing traditional swidden in the Southern Mountains of Yunnan Province, China. *Journal of Geography (Chigaku Zasshi)* **113**: 273-282. 2004 年 4 月.

Shirasaka, S. The transhumance of sheep in the Southern Carpathians Mts., Romania. *Geographical Review of Japan* **80**: 290-311. 2007 年 4 月.

【学術賞】

橋本雄一

受賞対象：橋本雄一『東南アジアの経済発展と世界金融危機』古今書院，198p.，2014 年 3 月.

横山　智

受賞対象：横山　智『納豆の起源』NHK 出版，317p.，2014 年 11 月.

Yokoyama, S., Okamoto, K., Takenaka, C. and

Hirota, I. eds. *Integrated Studies of Social and Natural Environmental Transition in Laos*. Springer, 160p., 2014 年 8 月.

横山　智編『資源と生業の地理学（ネイチャー・アンド・ソサエティ研究４巻）』海青社，350p.，2013 年 11 月.

【奨励賞】

杉本興運

受賞対象：Sugimoto, K. Visualizing the sightseeing potential of urban recreational spaces: A study of weighted scores on the density estimation of points of visual interest. *Geographical Review of Japan Series B* **86**(2): 189-197. 2014 年 3 月.

杉本興運•菊地俊夫. 日本における観光資源分布の地域的特徴. 地学雑誌 **124**: 1-24. 2014 年 2 月.

杉本興運・岡野裕弥・菊地俊夫. レンタサイクル利用による観光回遊行動の実態: 長野県安曇野市における GPS・GIS 支援による調査とデータ解析. 観光研究 **24**(2): pp15-27. 2013 年 3 月.

Sugimoto, K. Quantitative measurement of visitors' reactions to the settings in urban parks: Spatial and temporal analysis of photographs. *Landscape and Urban Planning* **110**: 59-63. 2013 年.

杉本興運. 観光者の視覚的体験情報に基づく回遊空間の評価ーデジタルカメラ，GPS，GIS を使った分析手法ー. GIS－理論と応用 **20**(1): 39-49. 2012 年 6 月.

Ronald Canero ESTOQUE

受賞対象：Estoque, R.C. and Murayama, Y. Measuring sustainability based upon various perspectives: A case study of a hill station in Southeast Asia. *AMBIO* **43**: 943−956.（2014 年 3 月 18 日オンライン刊行）

Estoque, R.C. and Murayama, Y. Social-ecological status index: A preliminary study of its structural composition and application. *Ecological Indicators* **43**: 183−194.（2014 年 3 月 25 日オンライン刊行）

Estoque, R.C. and Murayama, Y. A geospatial approach for detecting and characterizing non-stationarity of land change patterns and its potential effect on modeling accuracy. *GIScience & Remote Sensing* **51**: 239−252.（2014 年 4 月 24 日オンライン刊行）

Estoque, R.C. and Murayama, Y. Landscape pattern and ecosystem service value changes: Implications for environmental sustainability planning for the rapidly urbanizing summer capital of the Philippines. *Landscape and Urban Planning* **116**: 60-72.（2013 年 5 月 17 日オンライン刊行）

Estoque, R.C. and Murayama, Y. Examining the potential impact of land use/cover changes on the ecosystem services of Baguio city, the Philippines: A scenario-based analysis. *Applied Geography* **35**: 316−326.（2012 年 9 月 13 日オンライン刊行）

Ⅱ　2014 年度決算報告・監査報告について

兼子会計委員長より 2014 年度の一般会計および特別会計の決算案が提示され，その収支について矢ケ崎会計監査より適正であると承認したことが報告された。2014 年度決算案は異議なく承認された。

［一般会計］

（2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日）

【収入】

単位:円

費目	決算額	予算
繰越金	475,741	475,741
会費	1,098,000	593,000
一般会員会費	996,000	520,000
今年度分会費※1	672,000	-
過年度分会費	300,000	-
次年度以降分会費	24,000	
院生会員会費	96,000	70,000
今年度分会費	92,000	-
過年度分会費	4,000	-
学生会員会費	6,000	3,000
今年度分会費	6,000	-
寄付金	180,540	0
地理空間学会学術基金より繰り入れ	180,540	0
雑収入	688,784	280,000
機関誌販売	139,784	160,000
ページ超過料金※2	520,000	100,000
大会参加費	29,000	20,000
合計	2,443,065	1,348,741

※1　一般会員会費納入率 68%

※2　『地理空間』7 巻 1 号，7 巻 2 号

【支出】

単位：円

費目	決算額	予算
事業費	1,678,191	1,090,000
地理空間印刷費	1,491,624	800,000
7 巻 1 号印刷費	677,160	400,000
7 巻 2 号印刷費	799,200	400,000
別刷代	15,264	0
大会・例会運営費	130,191	240,000
名簿印刷費	56,376	50,000
事務関連費	155,974	188,741
通信運搬費	102,489	130,000
消耗品費	53,215	20,000
事務費	270	38,741
ウェブサイト制作費	180,540	0
予備費	0	70,000
繰越金	428,360	0
合計	2,443,065	1,348,741

［特別会計（地理空間学会学術基金)］

（2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日）

単位：円

収入	決算額	支出	決算額
前年度繰越金	1,583,294	2014 年度一般会計への支出金	180,540
寄付金	0	次年度繰越金	1,402,754
合計	1,583,294	合計	1,583,294

Ⅲ　『地理空間』掲載論文の若手研究者助成について

堤編集副委員長より，機関誌「地理空間」掲載論文について，若手研究者の研究を奨励するために，若手研究者による単著論文または若手研究者のみによる共著論文の別刷代およびオーバーチャージ代に対し，地理空間学会学術基金より助成を支給することが提案された。この案は異議なく承認された。

Ⅳ　2015 年度事業計画について

2015 年度事業計画について，「地理空間」第 8 巻 1 号および 2 号の刊行，第 8 回大会の開催（筑波大学筑波キャンパス），例会の開催，ニューズレターの発行（発表要旨特別号の発行を含む），ホームページとメーリングリストの管理・運営が提案された。2015 年度事業計画は異議なく承認された。

Ⅴ　2015 年度予算案について

2015 年度予算案について，収入と支出に関する説明がなされた。2015 年度予算案は異議なく承認された。

［2015 年度予算案］

（2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日）

単位：円

収入		支出	
前年度繰越金	428,360	事業費	1,105,000
会費	1,107,000	地理空間印刷費（8 巻 1 号, 2 号）	800,000
一般会員会費※1	988,000		
院生会員会費※2	104,000	大会･例会運営費	205,000
学生会員会費※3	15,000	若手研究者助成	100,000
寄付金	100,000		
地理空間学会学術基金より繰り入れ	100,000	事務関連費	165,000
雑収入	185,000	通信運搬費	130,000
機関誌販売	160,000	消耗品費	30,000
ページ超過料金	0	事務費	5,000
大会参加費	25,000	予備費	550,360
計	1,820,360	計	1,820,360

※1　247 名で計算　　※2　52 名で計算

※3　15 名で計算

Ⅵ　役員・専門委員会の構成について

山下常任委員長より役員および専門委員会（2014 年 7 月 1 日～2016 年 6 月 30 日）の構成員について一部の変更が提案された。役員および専門委員会構成員は異議なく承認された。

会　　長：櫻井明久（駒澤大）

会計監査：田林　明（筑波大名誉），矢ケ崎典隆（日本大）

常任委員：山下清海（常任委員長，筑波大），呉羽正昭（庶務委員長，筑波大），山下亜紀郎（会計委員長，筑波大），森本健弘（集会委員長，筑波大），松井圭介（編集委員長，筑波大）

評 議 員：井田仁康（筑波大），伊藤　悟（金沢大），伊藤徹哉（立正大），小口千明（筑波大），小野寺　淳（茨城大），加賀美雅弘（東京学芸大），兼子　純（愛媛大），川瀬正樹（広島修道大），菊地俊夫（首都大学東京），呉羽正昭（筑波大），小林岳人（松戸国際高），小宮正実（帝国書院），篠原秀一（秋田大），須山　聡（駒澤大），平　篤志（香川大），高橋重雄（青山学院大），堤　純（筑波大），中西僚太郎（筑波大），中村周作（宮崎大），中村理恵（前橋高），仁平尊明（北海道大），根田克彦（奈良教育大），橋本雄一（北海道大），平岡昭利（下関市大名誉），松井圭介（筑波大），丸山浩明（立教大），村山祐司（筑波大），森本健弘（筑波大），山下亜紀郎（筑波大），山下清海（筑波大），山下宗利（佐賀大），若本啓子（宇都宮大）

＜専門委員会＞

庶務委員会：呉羽正昭（委員長），市川康夫（副委員長），児玉恵理，中川紗智，橋爪孝介

会計委員会：山下亜紀郎（委員長），栗林　慶，羽田　司，福井一喜

集会委員会：森本健弘（委員長），池田真利子，石坂　愛，卯田卓矢，遠藤貴美子，坂本優紀，矢ケ﨑太洋

編集委員会：松井圭介（委員長），堤　純（副委員長），井田仁康，小口千明，須山　聡，田林　明，中西僚太郎，橋本暁子，橋本雄一，丸山浩明，村山祐司，矢ケ﨑典隆，山下　潤，Thomas C. Waldichuk

（書記）：小野澤泰子，橋本　操，益田理広，渡邊瑛季

学会賞選考委員会：井田仁康（委員長），岩間信之，中村周作，仁平尊明，村山祐司（事務局）

（※2015 年 7 月 1 日～2016 年 6 月 30 日，1 年間）

Ⅶ　その他

堤編集副委員長より機関誌「地理空間」の原稿種別について，第 8 巻 1 号より従来の「調査報告」と「研究ノート」を統合し，「リサーチ・ペーパー」（Research Paper）とす

ること，共著論文について将来的に第 1 著者を会員とすることを推奨するよう検討していることが報告された。

第 19 回例会の報告

以下の通り，第 19 回例会を開催いたしました。

【発表者・演目】

マーティン・フィリップス教授（イギリス，レスター大学）

（Prof. Martin Phillips, Leicester University, UK）

「イングランドにおけるルーラル

ジェントリフィケーション」

（Rural Gentrification in England）

〇2015 年 10 月 15 日（木）17:30～18:40

〇筑波大学筑波キャンパス総合研究棟 A111（ゼミ室）

〇筑波大学人文地理談話会との共催

日本学術振興会の招聘で日本に滞在中であったフィリップス教授に，農村地域における住宅や農場の「ジェントリフィケーション」について事例を挙げつつ講演いただきました。フィリップス教授はレスター大学所属の農村地理学者で，ルーラルジェントリフィケーション研究の世界的権威であります。過去レスター大学で活躍されたイアン・ボウラーの後継者に位置づけられる，現代のイギリス農村地理学を牽引する一人です。

写真　例会の様子

（2015 年 10 月 15 日　橋爪孝介　撮影）

※例会後，筑波大学本部棟 1 階レストランで懇親会を開催しました。

学会からのお知らせ

＜会計委員会からのお知らせ＞

1．会費納入のお願い

多くの方々から会費の納入をいただいておりますが，若干名，過年度の会費納入がお済みでない方もいらっしゃいます。未納の方は，「地理空間」第 8 巻 2 号に同封した振込用紙でお支払いください。納付したか不明な方や振込用紙をご希望の方は，事務局までお問い合わせください。大学を通じて電子振込みをされる場合には，必ず氏名と所属先の明記をお願いいたします。

［年会費の振込先］

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00120-5　　口座番号：779957

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行　　金融機関コード：9900

店番：019　店名：〇一九店（ゼ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座　　口座番号：0779957

受取人名：チリクウカンカ”ツカイ

(ウ) 年会費

一般会員 4,000 円　　大学院生会員 2,000 円

学生会員 1,000 円

2．「地理空間学会学術基金」の募金について

「地理空間学会学術基金」の募金活動について，会員の

皆さまの一層のご理解とご援助を賜りますようお願い申し上げます。

［地理空間学会学術基金の内容］

○名　　称：地理空間学会学術基金

○目　　的：地理学の優れた研究者を育成することを目的として，その研究活動の充実を図るための資金として活用する。

○募集対象：本学会の活動理念を理解し，本寄付の趣旨にご賛同いただける方。

○ご依頼額：１口２万円（何口でも可能です）

［振込方法］

(ア) ゆうちょ銀行への振込（ゆうちょ銀行の振込用紙を使用）

口座記号：00150-3　　口座番号：707452

(イ) 他の金融機関の口座からの振込

銀行名：ゆうちょ銀行　　金融機関コード：9900

店番：019　店名：〇一九店（ゼ”ロイチキュウテン）

預金種目：当座　　口座番号：0707452

受取人名：チリクウカンカ”ツカイカ”クシ”ュツキキン

※ 基金への寄付をいただいた方のお名前は，機関誌「地理空間」やホームページ等に掲載させていただきます。お名前の掲載をご希望でない方は，「匿名希望」とご記入ください。不明な点は，事務局までお問い合わせください。

＜編集委員会からのお知らせ＞

１．次号以降の投稿について

機関誌「地理空間」の原稿は随時受け付けており，査読を経て受理された論文から順次掲載して参ります。内容は最新の論争から時事性，トピック性の高いテーマ，丹念な調査に基づく活きのよい事例研究まで幅広く受け付けております。会員の皆様の活発な投稿をお待ちしております。投稿規定や執筆要領については，地理空間学会ホームページをご覧ください。

２．定期購読のお願い

本学会の活動を知っていただくため，会員の皆さまの研究室や大学・高校の図書館等での「地理空間」の定期購読をご検討いただけますようお願い申し上げます。ご購読いただける場合には，学会事務局までお知らせください。

３．「地理空間」掲載論文のリポジトリー等への掲載について

掲載誌が刊行されてから半年を経過した場合には，大学等の学術リポジトリーや著者本人のホームページ等へ自著の論文の掲載を認めます。掲載論文の電子ファイルが必要な方は，学会事務局までご連絡ください。

コラム「わたしのフィールドから」

橋爪孝介（筑波大・院生）

遥かに霞む緑の山々，水平線まで広がる一面の青い海，眼前で手際よく作業する漁業者。洋上でのフィールドワークは，陸上とは一味違った魅力が詰まっています。地球の表面の 7 割を占める広い海から，今回は私のフィールドである三重県志摩市（図 1）をご案内いたします。

志摩市近海は岩礁や浅瀬が多いため航行が難しく，台風の通り道でもあったことから，船乗りに恐れられた海域であり，漁業は文字通り命懸けの厳しい生業でした。こうした海への畏怖と伊勢神宮に近いという土地柄から，自然や神を尊ぶ心が育まれ，志摩市の人々は自然を大切にしながら海洋資源を利用してきました。近代には地元・和具（わぐ）の漁業者であった 2 代目石原円吉が科学的知見に基づく漁業資源管理を住民に説き，持続可能な漁業を推進しました。和具ではこのため，全国に先駆けてイセエビの漁業資源管理を行う「和具海老網同盟会」を昭和初期に立ち上げ，出漁時刻や漁具など細かな規制を定めました。

近年は漁業者の減少と高齢化，海洋資源の減少など全国と同様の課題が噴出しています。そこで市では環境を利用しながら守り，産学官民が連携した「里海創生事業」を重要政策に位置付け，推進しています（図 2）。

さて実際の漁業はどうなっているのでしょうか。2015 年 10 月 3 日，当季初のイセエビ漁に同行しました。ご協力いただいた和具の T さんは漁業歴 33 年のベテランで，夫婦でイセエビ漁を行っています。13 時 17 分，船神様への願掛けを済ませて和具漁港を出発，港を出たところで停船し，13 時 22 分に海老網同盟会役員の号令で漁場に向けて発船します。港から南西へおよそ 5km，20 分ほどで漁場に到着です。ここから魚群探知機と昨年の漁況，周辺海域で操業する漁業仲間の投網地点を勘案して網を海へ投下します。投網は奥さんの役割で，10 丈（約 30m）の網を南西ー北東方向に 3 束投入していきます（表紙写真）。網を入れ終えると船は港に戻ります。この日の航海はわずか 53 分で完了しました。

翌日，まだ夜が明けきらない 5 時 13 分に再び T さんを訪ねました（写真 1）。既に出航準備を整えていた T さんは，「イセエビ漁の時期になると，体が覚えとって自然と早起きできるんやに」と笑顔で話していました。当季初の水揚げは漁業者にとって緊張の瞬間。5 時 39 分，前日に網を投下した地点に到着，T さんが揚網機を使いながら網を引き上げ，奥さんが揚がった網を束ねます（写真 2）。残念ながら例年よりも漁獲は少なめでしたが，イセエビは「ギーギー」と元気よく威嚇音を発していました。

6 時 51 分，港に戻ると T さんの親戚が待機していて網を陸上へ揚げると，荷車に載せてすぐに運んでいきました。運ぶ先は港の端にある網捌(あみさば)き場。ここでは当日都合の付く家族・親戚が集まって網からイセエビや混獲された魚介類を取り外す「網捌き」を行います。イセエビは角が折れると極端に価格が下がるので，慎重かつ手早く網から外します（写真 3）。外されたイセエビは藁で編んだかごに入れ，市場へ持って行き入札にかけられます。水揚げ初日ということもあり，地元の方や報道関係者，私のような研究者など多くの人が港に来ており，賑っていました。

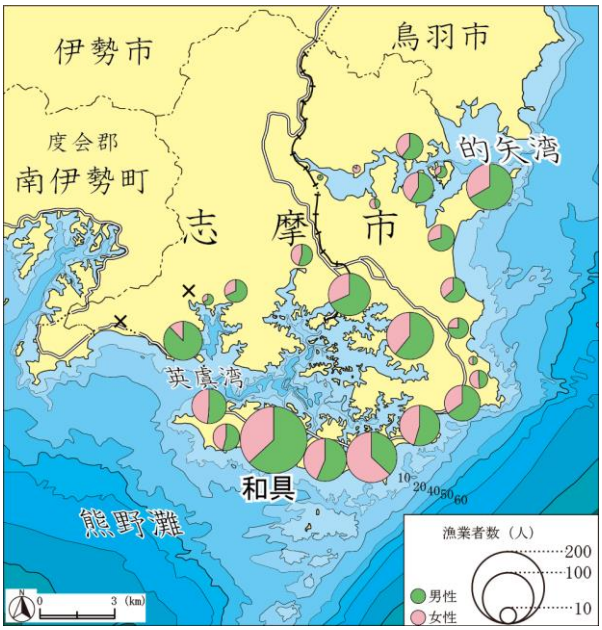

図 1　志摩市の漁業者の分布（2013 年）

図 2　里海創生計画の目標（概念図）

写真 1　夜明けを待つ和具漁港

（2015 年 10 月 4 日　橋爪孝介　撮影）

日本における漁業地理学の研究者は，残念ながら今も昔も少数ですが，志摩市は青野壽郎先生のカツオ釣り沿岸漁村研究に始まり，大島襄二先生の真珠養殖，大喜多甫文先生の海女漁業研究を経て，2000 年以降も池口明子先生や高木秀和先生がフィールドとしてきた稀有な地域です。研究者による注目だけでなく，最近では 2016 年 5 月の「伊勢志摩サミット」の開催決定や海女をモチーフとしたキャラクター「碧志摩（あおしま）メグ」の市公認をめぐる騒動など，これまでにないほど志摩市が世界の人から注目を集めています。そのような志摩市を研究者としての鋭い目と，地元出身者としての暖かなまなざしで見つめていければと思いながら，研究を進めています。

写真 2　夫婦で行う揚網作業
（2015 年 10 月 4 日　橋爪孝介　撮影）

写真 3　慣れた手つきで行う網捌き
（2015 年 10 月 4 日　橋爪孝介　撮影）

編集後記

2016 年は暖かな冬で幕を開けました。日常生活には過ごしやすい反面，スキー場では雪不足が深刻となっております。本年が会員の皆様にとって充実した 1 年となりますよう，お祈りします。

ニューズレターでは学会に関連した情報を適宜掲載していきますので，掲載すべき情報やご要望がございましたら，事務局までお寄せください。最新の情報は学会ホームページで随時更新しております。本会では，会員間の情報交換の手段として，メーリングリスト（jags-ml@geoenv.tsukuba.ac.jp）を開設しております。すでに多くの方にご参加いただいておりますが，まだ登録されていない方でメールアドレスをお持ちの方は，ぜひご参加ください。

JAGS Japan Association on Geographical Space

地理空間学会ニューズレター　第 24 号

発行日：2016 年 2 月 25 日
発行所：地理空間学会事務局

〒305－8572　茨城県つくば市天王台 1－1－1
筑波大学生命環境系地球環境科学専攻内　地理空間学会事務局
TEL／FAX　029－853－6873
E-Mail　geospace@geoenv.tsukuba.ac.jp
URL　http://jags.ne.jp/